はしがき

序章　経済学の政策科学的条件 …… 1
―自由経済における価値対立の調整―

第一部　価値多元の相互批判 …… 25

Ⅰ　マックス・ウェーバーの「永遠の光」と
グンナー・ミュルダールの「論理的十字架」 …… 27

Ⅱ　G・ミュルダールの経験科学的政策論について …… 35

Ⅲ　政策論におけるウェーバーとミュルダール …… 52

Ⅳ　価値観主観説の擁護 …… 65
―ウェーバー、ミュルダール、ポパーの「価値自由」に沿って―

Ⅴ　価値の多元的対立と民主的調整 …… 84
―「自由」を中心にポパー説の再吟味―

第二部　合理的認識の限界……127
Ⅰ　カール・ポパーの社会科学論について……129
Ⅱ　ポパーの科学論と経済学のあり方……148
Ⅲ　アダム・スミスの「見えざる手」の諸解釈と現代的意義……168
Ⅳ　経済学説における合理主義の行き過ぎとその抑制……210
　　―T・W・ハチソンの学説史によって―
第三部　福祉理念の志向性……233
Ⅰ　経済思想として福祉国家を考える……235
Ⅱ　「ポリティカル・エコノミー」の意味するもの……258
Ⅲ　福田経済学と福祉国家論……280
　　―福田徳三先生歿後五十年にあたって―
Ⅳ　社会保障の根底にある社会理念をめぐって……304
あとがき
索　引